

ガムシ和州 シリケノウジ石州 ウナグジ加州 ウナクジ ウナグシ同上 此ノ形ニナル

時ハ糞缸中ヨリ出上リ板間或ハ壁隙ニ入り黒キ蛹トナリ羽化シテ大麻蠅トナル

〔古事記上〕爾伊邪那美命答曰、悔哉不速來、吾者爲黃泉戶喫、然愛我那勢命那勢二字以入來坐之事

恐故欲還、且具與黃泉神相論、莫視我如此白而還、入其殿内之間甚久難待、故刺左之御美豆良三字

此下效 湯津津間櫛之男柱一箇取闕而燭一火入見之時、宇士多加禮斗呂呂岐氏此十字 於頭者大雷

居略 下

〔古事記傳六〕宇士は蛆字を訓來れり、本草てふ書に李時珍云 蛆蠅之子也、凡物敗臭則生之とあり、和

名抄には、胆を波閉乃古とありて、宇士てふ訓はなし、胆と蛆とは通ふ、字鏡には、蜡を宇自とあ

り、蜡の字士なるべき由はいかにしらす 今も腐爛たる物に生る小虫を宇士とぞいふ、

狗蠅

〔倭名類聚抄十九〕狗蠅。兼名苑云、狗蠅一名犬蠅著於犬

〔箋注倭名類聚抄八〕按狗蠅又見齊東野語、李時珍曰、狗蠅生狗身上、狀如蠅、黃色能飛、堅皮利喙

噉、啞狗血、冬月卽藏狗耳中者是也、今俗呼以奴婆倍也、

〔和漢三才圖會五十二〕狗蠅 以沼波閉略 中

接狗蠅、多著老狗羣頸、潛行啞血、故難避、用煙草脂塗程心、如輪而每宜掛于狗頸、

〔重修本草綱目啓蒙二十七〕狗蠅 伊ヌバイヌバ

狗身ニ集ル蠅ハ、夏秋尤多シ、蒼蠅ヨリ狹長ニシテ、背平ニシテ、黃赤色、人ニ著ク時ハ、其害ヲナス、

燈油ヲ啞シムル時ハ、堅クナリテ死ス、

守瓜

〔倭名類聚抄十九〕守瓜 爾雅注云、蠶一名守瓜蠶音蠶、和名 食瓜葉者也、

〔箋注倭名類聚抄八〕爾雅云、蠶與父守瓜、郭注云、今瓜中黃甲小蟲、喜食瓜葉、故名守瓜、此所引蓋

舊注也、說文蠶、蟲也、玉篇蠶、食瓜蟲、列子天瑞篇、蠶文釋、瓜中黃甲蟲也、郝氏曰、此蟲黃色、小於蟹螯、